



平成28年度 学校だより

# 緑 柏

長崎県立佐世保南高等学校

No.140 平成28年11月30日発行

発行責任者 松井 裕次

校長室の窓から

## 大きく学ぶ

校長 松井 裕次

### 父の通知表

私の亡父は大正生まれ。幼少の頃からギターを手にしていたというから、当時としては恵まれた家庭だったらしい。ところが、小学生の頃に母親そして父親を続けて亡くし、祖母（私の曾祖母）に育てられた。実家には父の小学校時代の通知表がある。祖母が大切に残してくれたのだろう。大きく学ぶ夢を持って勉強していただろうに、家計を案じ、中学校には行かなかったという。

### 父は父なりに

父は日本刀の研ぎ師を志し、刀剣店に務めながら修行した。戦前、今の国際通りに自分の「刀剣店」を開いている。「芸は身を助く」というが、海軍に招集されてからも刀剣班長として重宝され、外地へ行くこともなかった。そこには複雑な思いがあったと聞いたが、父が母と出会い兄と私が生まれたのは「刀剣」のおかげである。戦後、その仕事が成り立つわけもなく、転々と仕事を変え、私が物心つく頃には駐留軍（ベース）で仕事をしていた。その仕事も私が小学校に入る前に、人員整理で解雇されてしまった。父が言うには、「学歴のないものから…」だったそうだ。その後、父は食料品店を営むことになったが、近くに住むアメリカ人相手に、ベースで鍛えた英語で堂々と渡り合っていたのを記憶している。また、博物館に連れられて行ったとき、父の刀剣をみる鋭いまなざしも忘れられない。父は父なりに、フィールドを広げながら商いに必要な大きな学びをしたに違いない。

### 大学で何を学ぶのか

父は私に繰り返しこう言った。「小学、中学じゃなか、大学という字ばようみて見ろ。『大きく学ぶ』と書いてある。お前は、大きく学ぼうとしよつか。大きく学ぶ気持ちがなかぎ、行かんでよか。」

父は私の「志」を質したかったのだと思う。自分が勉強できなかった分、子供たちには本当の学びをしてほしかったにちがいない。果たして自分がその期待に応えられたかどうかは分からない。

私は、理学部で数学を勉強したというよりは、柔道部の記憶の方が大きい。しかし、父はそれを誰よりも認めてくれた。今にして思えば、父の言う「大きく学ぶ」というのは、志したもの、出会ったものに、「徹底して取り組み」ということを教えたかったのだと思っている。

みんなが、誰かのためになれる自分を探している。見つかるまでの道のりは大変だ。大きく学ぶとは一様ではない。ある人は、学問の府で専門分野を誰よりも深く極めるのだろう。またある人は、視野を広げ自分とは違う価値観を持っている人と出会い、フィールドを広げながら大きな人格をつくっていくことだろう。そして、それぞれの人生が大きな見守りに育まれていることも忘れてはならない。

## ○ 「薬物乱用防止教室」の実施

10月26日(水)に「薬物乱用防止教室」を実施しました。佐世保警察署より生活安全部少年課 松永俊純氏を講師として迎え、国内外の違法薬物の実態、薬物乱用の脳への悪影響などについて、パワーポイントを使いながら、具体的に説明していただきました。生徒達は「薬物の誘いには絶対に乗らない」という意思を強くしました。



## ○ 「乳幼児ふれあい体感事業」の実施

10/25(火)、27(木)、28(金)の3日間、「乳幼児ふれあい体感事業」が行われました。1年生全クラスが(家庭科の授業の一環で)乳幼児親子とふれあうことで、これから親となる高校生に、乳幼児に対する愛着を持たせ、親の役割の重要性、命の尊さなどに気づかせることを目的としています。

今年度は3日間で延べ114組246名の親子が参加してくださいました。乳幼児のおむつを替えたり、絵本の読み聞かせをしたり、抱っこなどをたくさんさせていただく中で楽しく学ぶことができました。また、親御さんからは出産時のエピソード、育児の大変さ、楽しさなどを聞くことができました。さまざまな発見と経験に、多くの生徒が笑顔にあふれ、貴重な体験となったようです。



## ○ 「後期生徒総会」

11月2日(水)、後期生徒会が行われました。今回の総会では、第1号議案(後期生徒会活動方針案)、第2号議案(各クラスから提出された学校生活における意見・要望)に対する審議がおこなわれ、2つの議案は承認されました。生徒会実行委員の生徒たちの熱意が伝わり、特に第2号議案では活発な意見交換が行われました。

今回の総会で注目すべきは、以前からの生徒の要望が受け入れられ、トイレ等水周りの改修が実現したことです。この他にも生徒の意見・要望には傾聴すべきものが多く、学校生活について多くの生徒が建設的な意見を持っていることがわかりました。

生徒会常任委員長の言葉にもありましたが、選挙権年齢が引き下げられたことで、投票で直接的に政治に関わったり、主体的に意見表明をしたりする機会が今後ますます増えていきます。今回の生徒総会は、最も身近な「民主主義の場」としての生徒会活動の意義を考え直してみるよい機会となりました。



## ○ 「後期人権学習」の実施

11月17日(木)に平成28年度後期の人権学習を行いました。今回のテーマは「差別を見つめる」で、「就職差別」について学びました。これは採用選考時に、違反質問をもとに採否を決定することを指しますが、生徒は真剣な表情で差別について学び、考えを深めていました。基本的人権を尊重することの大切さや、同和問題などの解決すべき差別問題があること、そしてその解消のためには、市民である私たちが強い意志をもって行動しなければならないことを学びました。生徒からは、「自分の差別に対する認識が甘いことに気づいた。」、「差別を傍観するだけの人間にはなってはいけない。」、「これからは日ごろの自分の言動にも気をつけていきたい。」という感想があり、将来、社会に出る上で必要となる感性や考え方を身につけました。

## ○全員の思いをつないだタスキリレー！（長崎県高校駅伝結果報告）

11月2日（水）に長崎県高校総体駅伝競技の部が、雲仙・小浜マラソンコースを舞台に開催されました。42.195kmというフルマラソンの距離を、男子は7区間でタスキをつなぎながら駆け抜けました。結果は45校中31位となり、今年の順位よりも4つ上げることができ、また、チームとしての記録も約5分伸ばすことができました。今年は走者全員が2年生のメンバーで出場しましたが、苦しい練習も、仲間と競い合い、支え合いながら取り組んだ日ごろの練習の成果が表れたと思います。

今後は1月に行われる新人駅伝大会や、来年度の高総体に向けてチーム一丸となり、より一層競技力やチーム力を高めていきます。多くの方々のご支援・ご声援ありがとうございました。



## ○「第2回校内美化コンクール」の実施

去る11月7日（月）～9日（水）、「後期美化コンクール」を実施しました。この取り組みは、学校設備を大切にすることを育み、勉強しやすい教育環境をつくることを目的としており、午後の清掃時間を利用して美化意識を喚起する南高恒例のイベントです。

前期に続いての実施となった今回は、「対象エリア」を各クラス2ヵ所（自教室含む）ずつ設定し、掃除や整理整頓具合を競いました。期間中、普段にも増して真剣に掃除に励む生徒たちの姿が見られ、改めて、南高の生徒たちの行事ごとへの取り組みの素晴らしさが感じられました。今後も生徒・職員が協力して美しい南高を維持していきたいです。以下は今回の最終順位です。優勝の3年2組の皆さん、おめでとうございます！！

《総合順位》

★第1位…3年2組 第2位…3年1組 第3位…1年5組 第4位…3年6組 第5位…2年1組

《学年の部》

【1年】★①位…1年5組	②位…1年1組	③位…1年6組
【2年】★①位…2年1組	②位…2年3組	③位…2年5組
【3年】★①位…3年2組	②位…3年1組	③位…3年6組



## ○第2回「スクールカウンセラーによる講話」

11月9日（水）に、スクールカウンセラーの富崎先生による講話が行われました。これは、“心の健康づくり”を目的として、6月の講話に引き続き毎年2回ずつ実施されています。

今回のテーマは、3年生が「受験期のストレスと上手に付き合おう！」、1・2年生が「いじめを考える」です。3年生は、受験が終わるまでの期間、ストレスに押しつぶされることなく、心も身体も元気に過ごせるようにとストレス対応の4つのポイント「①自分の意見をしっかりと持つ ②相談相手を持つ ③時には耐えることも必要 ④時には回避することも必要」などを話してくださいました。

1・2年生は、何気なく行っていることが「いじめ」になるという具体例を話され、ハッとした生徒もいたのではないかと考える内容でした。「絶対にいじめをしない」という意識を強く持つことの大切さと先生の心温まる講話に、生徒たちは皆、聞き入っていました。



## ○「歯科講話」

毎年この時期に、1年生を対象とした、歯科講話を実施しています。今回は、11月14日（月）に、学校歯科医の佐々一男先生（さざ歯科：もみじヶ丘町）に来ていただきました。南高生の歯の状況は、う歯は少ないですが、歯周疾患（歯周病、歯石の付着、歯垢残り）が多い、歯科受診率が低いという傾向があります。

歯科講話では、歯の構造や働き、食事による歯の影響（食事・清涼飲料水による酸蝕歯）、姿勢やくせによる歯の影響（頬杖や食いしばり、姿勢などによる態癖）について、講話をいただきました。人生を通して使う大事な歯。その健康を守るために、今後の日常生活に活かせる内容の講話でした。



## ○「平成28年度 長崎県高等学校総合文化祭（しおかぜ祭）を終えて」

平成28年11月11日（金）12：50アルカスSASEBO 大ホールのステージ裏では緊張の空気がいっぱいに漂っていた。寸前まで報道の取材に応じていた私にもはっきりとそれが分かった。これからの大舞台に立つ実行委員の生徒の姿が眩しいぐらいに輝いて見えた。5分後プロローグが始まった。前日まで心配された式典班の演技はそれをまったく感じさせない堂々たるものだった。続いてのオープニング班は意表をついた道路工事現場のシーン。練習の成果を十分に出し切った見事な演技に、会場に詰めかけた1800名の観衆を虜にしてしまった。その後もプログラムはスムーズに進み、後半は専門部の発表。吹奏楽、コーラス、書道と邦楽のコラボ、最後はマーチング。いずれも県を代表する優秀な演奏・演技に改めて文化活動の素晴らしさを感じることができた。最後はエンディング。実行委員会と出演者全員で歌った「未来へ」は感動で胸が熱くなった。

一方では大ホールの客席までをつないだ空間演出も見事で、ポスターのデザインで作った階段アートや、風船と波佐見焼きで飾る道も県北ならではの立派なものだった。交流スクエアには美術や書道、写真に新聞そして文芸の展示。日頃ゆっくり鑑賞する時間が少ない生徒たちにとっても芸術の素晴らしさを感じる事ができたと確信している。

思い起こせば、今年1月11日に行われた生徒会サミットを担当した生徒たちが、多くの仲間を増やし104名からなる実行委員会を立ち上げた事が、花を咲かせたのだと思う。8回の実行委員会に加え7回の班別の話し合い。一人ひとりが熱い情熱をもって取り組んできたことが、それぞれのこれからの人生の支えとなることだろう。大会は終わったが、文化活動が終わったわけではない。今回のテーマ「道」の意味が分かるのはこれからののだ。今回の「しおかぜ祭」に関わった生徒全員が、将来大きく羽ばたいてくれることを心から祈る。

実行委員長 平瀬 裕 明

